

# 授業改善

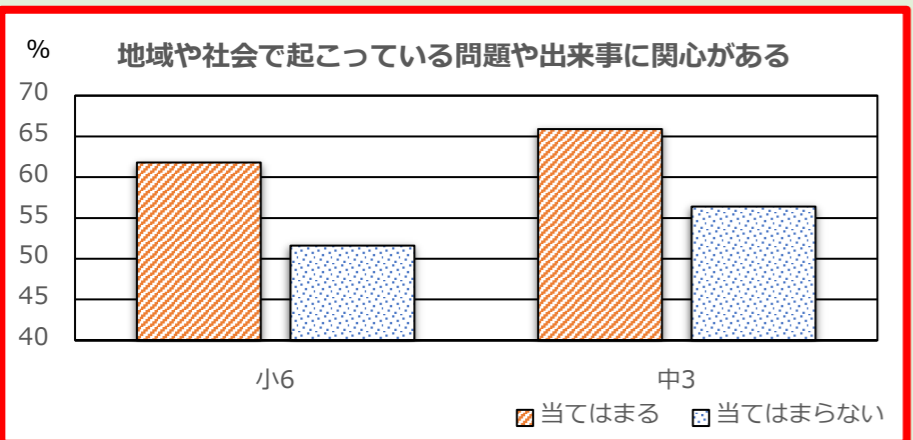
～平成30年度学力・学習調査質問紙から～

## 求められる授業とは

平成30年5月「確かな学力を育成する授業づくり」で示した「求められる授業」と、今回の学力・学習状況調査の結果との関連について見てみましょう。



「学ぶ」「知る」「できる」「分かる」楽しさや面白さ、実生活とのつながりを感じられる授業づくりを意識しましょう。



上のグラフは、「地域や社会で起こっている問題や出来事に関心がある」調査で肯定的意見群と否定的意見群の平均正答率です。平均正答率で約10ポイントの差があります。世の中の事象に対する意識が高い児童生徒ほど、正答率が高いことが分かります。

☆「学ぶ」「知る」「できる」「分かる」楽しさや面白さ、実生活とのつながりを感じられる授業づくりを意識しましょう。

- ・日々の授業で教科書の内容と実生活をつなげる工夫
- ・学ぶ必然性のある課題の設定
- ・「できた」「分かった」を実感している子どもの姿の見取り

☆「今、何を学んでいるのか」を子どもたちと共有しながら授業を進めましょう。

- ・単元の中の本時の位置づけを意識
- ・授業のねらいの提示の工夫
- ・学びやすさの工夫

☆互いの気づきや違いを大切にして考えを深め、解決できる場を設定しましょう。

- ・学んだ知識や技能が活用できる問題の設定
- ・周りとの協力する学び合い活動
- ・新たな課題を見出す働きかけ

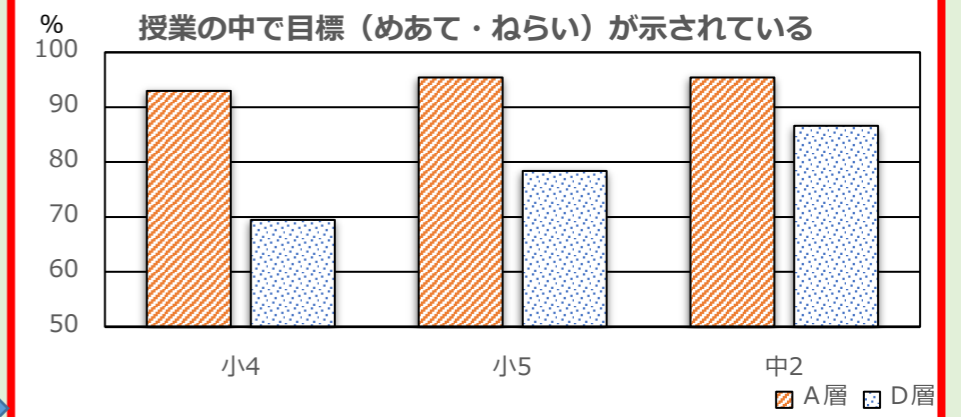
☆自分の思いや考えを、論理的に説明できる学習活動を設定しましょう。

- ・条件や順序、関係性等を整理する活動
- ・根拠を明確にし、言葉や式で表す活動
- ・学んだことを振り返る場の設定

「求められる授業」は「とち介の学び」と密接な関係があります。これからも「とち介の学び」を活用した授業づくりを心がけましょう。

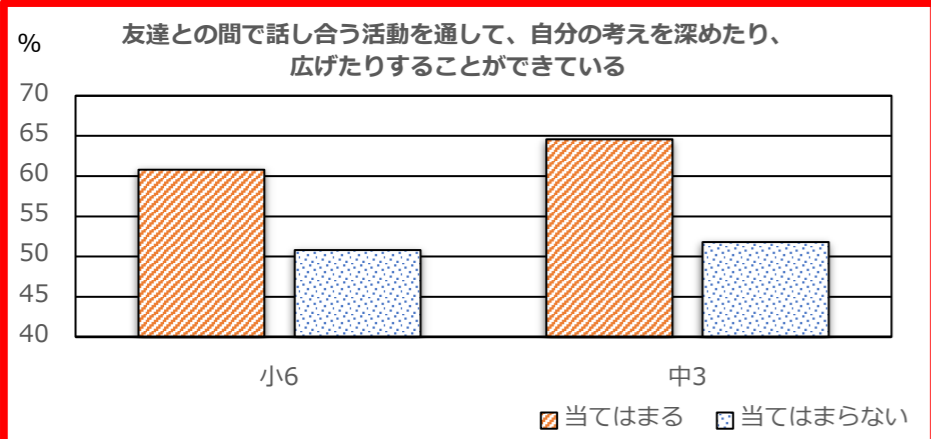


「今、何を学んでいるのか」を子どもたちと共有しながら授業を進めましょう。



上のグラフは、「授業の中で目標(めあて・ねらい)が示されていた」について、A層(成績上位層)とD層(成績下位層)それぞれで肯定的な回答をした割合です。特に小学4年では約20ポイントの差があります。めあてに対する意識が高い児童生徒ほど、正答率が高いことが分かります。

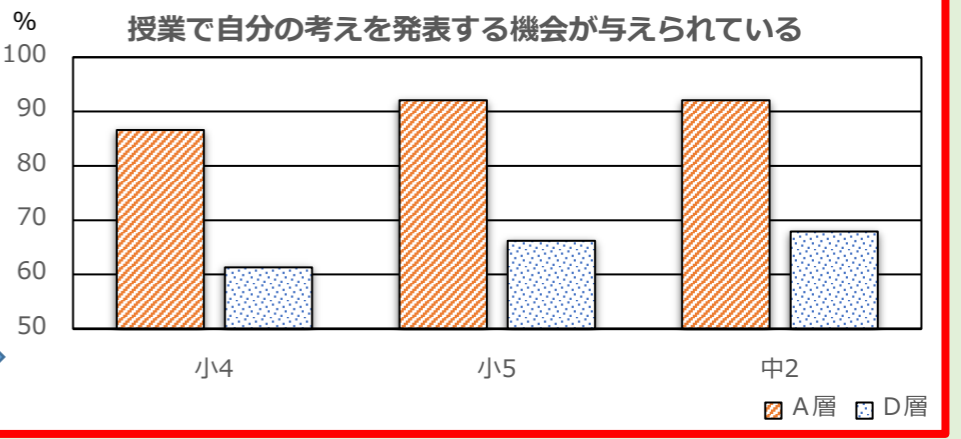
互いの気づきや違いを大切にして考えを深め、解決できる場を設定しましょう。



上のグラフは、「学級で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができる」調査で肯定的意見群と否定的意見群の平均正答率です。平均正答率で約10ポイントの差があります。話し合い活動は自分の考えを広げ深める場である意識が高い児童生徒ほど、正答率が高いことが分かります。

当てはまる = 「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」  
 当てはまらない = 「どちらかといえば、当てはまらない」「当てはまらない」

自分の思いや考えを、論理的に説明できる学習活動を設定しましょう。



上のグラフは、「授業で自分の考えを発表する機会が与えられている」について、A層(成績上位層)とD層(成績下位層)それぞれで肯定的な回答をした割合です。どの学年でも約20ポイントの差があります。自分の思いや考えを説明しようとする意識が高い児童生徒ほど、正答率が高いことが分かります。

A層・D層 = 4層分析による：児童生徒を正答率によって25%刻みの層に分け、上位からA・B・C・D層としている。